

馬産地ライター村本浩平の 2025 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. **2** | **6.10**[火] ▶ **7.31**[木] 開催分

6.12 [木] ルヴァンスレーヴ賞 【北海優駿(H1)】

ルヴァンスレーヴは2015年産まれの10歳。父はシンボリクリスエス、母はマエストラレ、母の父はネオユニヴァースとなります。現役時は10戦7勝の成績を残しています。2歳時にはJpnI全日本2歳優駿を優勝。3歳時はJpnIジャパンDダービー、JpnIマイルChS南部杯に続き、GIチャンピオンズCでは3歳馬として4頭目の優勝を果たします。種牡馬入りした2021年は国内最多の223頭に種付けを行っており、2024年にホッカイドウ競馬でデビューしたソルジャーフィールドは、JBC2歳優駿に続いて北斗盃も制しています。

6.19 [木] テーオーケインズ賞 【赤レンガ記念(H3)】

テーオーケインズは2017年産まれの8歳。父はシニスターミニスター、母はマキシムカフェ、母の父はマンハッタンカフェとなります。現役時は25戦10勝の成績を残しています。4歳時にGIIIアンタレスSを制して臨んだJpnI帝王賞を優勝。その年にはGIチャンピオンズCも制しています。5歳時には前年に4着に敗れたJpnIJBCクラシックを優勝。6歳時にもJpnI川崎記念で2着となるなど、掲示板を外さない安定した活躍を見せていきました。2024年から種牡馬入りしており、その年には97頭に種付けを行っています。

6.24 [火] モズアスコット賞 【栄冠賞(H2)】

モズアスコットは2014年産まれの11歳。父はFrankel、母はIndia、母の父はHennessyとなります。現役時は26戦7勝の成績を残しています。4歳時にはGI安田記念をレースレコードタイで優勝。6歳時からはダートに戦いの場を移し、GIII根岸Sを制して臨んだGIフェブラリーSも優勝して、史上5頭目となる芝、ダート双方でのGI制覇を達成します。初年度産駒は昨年デビューし、ベアバッキューン(若武者賞、鎌倉記念)に続き、GII弥生賞ではファウストラゼンが優勝。種牡馬としても芝、ダートで二刀流の活躍を残しています。

6.26 [木] シャープアステカ賞 【フロイラインカップ(H3)】

シャープアステカは2013年産まれの12歳。父Freud、母So Sharp、母の父Saint Liamとなります。現役時は17戦8勝の成績を残しています。3歳時のGIIIパットデイマイルSで初優勝制覇をあげると、4歳時には7戦して重賞を4勝する活躍。その中にはGIシガーマイルも含まれています。2019年からアメリカで種牡馬入り。2022年にデビューした産駒は、その年の北米ファーストクロップと2歳総合サイアーランキングの勝ち馬数で首位となります。日本では2024年からの繋養となり、その年には146頭に種付けを行いました。

7.10 [木] ダノンキングリー賞 【星雲賞(H3)】

初年度
産駒
デビュー

ダノンキングリーは2016年産まれの9歳。父ディーピンパクト、母マイグッドネス、母の父Storm Catとなります。現役時は14戦6勝の成績を残しています。3歳時のGIII共同通信杯で重賞初制覇。その年の秋からは芝の中距離路線に戦いの場を移していき、GII毎日王冠を優勝。4歳時にはGII中山記念も制して見せます。5歳時には7度目のGI挑戦となった安田記念を優勝しました。2022年に種牡馬入りし、その年には85頭に種付けを行いました。本年デビューを迎える初年度産駒も高い評価を受けています。

7.17 [木] ダノンスマッシュ賞 【ノースクイーンカップ(H2)】

初年度
産駒
デビュー

ダノンスマッシュは2015年産まれの10歳。父ロードカナロア、母スピニングワイルドキャット、母の父ハードスパンとなります。現役時は26戦11勝の成績を残しています。3歳秋のGIII京阪杯で初重賞制覇。その後は芝スプリント重賞戦線を沸かせていき、5歳時のGI香港スプリントでは、父ロードカナロアとの親子制覇を達成。6歳時にも父が制したGI高松宮記念を優勝します。2022年に種牡馬入りし、その年には146頭に種付けを行っています。本年2歳を迎えた初年度産駒は、ホッカイドウ競馬でもデビューを果たしています。

7.23 [水] ホットロッドチャーリー賞 【リリーカップ(H3)】

ホットロッドチャーリーは2018年産まれの7歳。父Oxbow、母Indian Miss、母の父Indian Charlieとなります。現役時は19戦5勝の成績を残しています。2歳時のBCジュヴェナイルで2着となると、3歳の秋にはペンシルヴァニアダービーでGI初制覇を果たします。またGIケンタッキーダービー、GIベルモントS、4歳時のGIIドバイワールドCで2着と、ダート重賞戦線で活躍を続けました。2023年に種牡馬入り。半兄は米国チャンピオンズプリンターのMitoleという血統背景も受けて、その年には133頭に種付けを行いました。

7.24 [木] グレナディアガーズ賞 【王冠賞(H2)】

グレナディアガーズは2018年産まれの7歳。父Frankel、母ウェイヴェルアベニュー、母の父Harlingtonとなります。現役時は16戦3勝の成績を残しています。2歳時にはGI朝日杯FSを2歳コースレコードで優勝。GI勝ちはその1勝ながらも、3歳時にはGINHKマイルCで3着、秋にはGII阪神Cを優勝しています。阪神Cとの相性が良く、4歳時と5歳時にも2着に入着と、スピード能力の高さを武器に、芝の短距離重賞戦線で安定した活躍を続けました。2024年に種牡馬入りしており、その年は123頭に種付けを行っています。

7.30 [水] カラヴァッジオ賞 【旭岳賞(H3)】

カラヴァッジオは2014年産まれの11歳。父Scat Daddy、母Mekko Hokte、母の父Holy Bullとなります。現役時は10戦7勝の成績を残しています。2歳から3歳にかけて破竹の6連勝。その中にはGIフィニクスSとGIコモンウェルスCも含まれています。2018年からアイルランドで種牡馬入りすると、欧州ファーストクロップリーディングサイアーとなっただけでなく、世界三か国でGI馬を送り出します。日本では2023年から繋養を開始。その年にはアグリがGIII阪急杯を優勝と、日本競馬への適性の高さも示しました。

7.31 [木] シャンハイボビー賞 【ポラリスサマースプリント(H3)】

シャンハイボビーは2010年産まれの15歳。父Harlan's Holiday、母Steelin'、母の父Orientateとなります。現役時は8戦6勝の成績を残しています。2歳時に無傷の5連勝でGIIホープフルS、GI米シャンプainenS、GIBCジュヴェナイルを優勝。その年のエクリプス賞最優秀2歳牡馬に選出されます。2014年からアメリカで種牡馬入りし、2019年からは日本で繋養を開始。マングリンヒーローはハイセイコー記念に勝利し、GIサンタアニタダービーでも2着。ホッカイドウ競馬でもシシャモフレンドがリリーカップを優勝しています。

今シーズンは特別競走7レースも「スタリオンシリーズ競走」として開催!
●門別5回・ノーブルミッション賞 ●門別7回・アメリカンペイトリオット賞
●門別16回・ステラヴェローチェ賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。
※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

